

授業概要

～読める韓国語入門～

言葉は文化の一部であり、他者の文化を理解するための入り口でもある。世界的にも国際化が進む中、国際理解力の重要性から自他理解の出発点とも言える外国語科目の必要性も高まっている。外国語の中でも韓国語は、日本語と語順が似ている点で学びやすく短期間でも文字が読めるとも魅力的な言語である。

韓国語Ⅰでは、基礎的なコミュニケーションに必要な韓国語の基礎文法を学び、簡単な読解と日常会話ができることを目的とする。授業の7回目までは、発音と読み書き、単純な会話が中心で、正確な発音を身につけてもらい、同時に聞く力、書く力、読む力をつけて行く。基本の読み書きが終わったら異文化体験やリスニングのために映画やドラマ、音楽など韓国文化にも触れながら学習者が緊張せず、話せるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス及び韓国の文字（ハングル）と音韻体系
第2回	あいさつと韓国語の基本母音 *文化体験①（映像・リスニング 20分）
第3回	ハングルの子音①「平音」 *文化体験②（映像・リスニング 20分）
第4回	ハングルの子音②「平音」と「複合母音 ‘에 (エ)’」
第5回	ハングルの子音③「激音」
第6回	ハングルの子音④「硬音（濃音）」
第7回	ハングルの複合母音
第8回	パッチムと発音の変化 *文化体験③（映像・リスニング 20分）
第9回	読み書き練習・音楽 *文化体験④（映像・リスニング 20分）
第10回	自己紹介—助詞「～は・～が」、肯定文・疑問文「～です・～ですか」*発表
第11回	趣味を言う—指示代名詞「これ・それ・あれ」、助詞「～も」、疑問詞「何」、形容動詞「好きだ」*文化体験⑤（映像・リスニング 20分）
第12回	天気について—過去形・否定文「～ではない」*文化体験⑥（映像・リスニング 20分）
第13回	場所や存在の有無を説明する—「～にある・いる」「～にない」、位置名詞、疑問詞「どこ」、助詞「～と」*発表
第14回	歴史・映画①「正義とは何か？」
第15回	歴史・映画②「戦後の韓国社会を中心に」・まとめ
第16回	試験

到達目標

1. ハングルの発音表記をマスターして、正確な発音と読み書きができる。
2. 基礎的な文法事項を一つずつ学び、簡単なコミュニケーションができる。
3. 韓国の社会情報にも触れ、異文化理解を深める。

履修上の注意

1. 外国語の授業なので、発表・ペアで行う活動など授業への積極的な参加が求められる。

予習復習

1. 予習については、毎回、提示されるテキストを読んでくること。
2. 復習については、毎回、提示される課題をやってくること。

評価方法

平常点（50点—授業への参加度・小テスト・課題・発表）、試験（50点）を予定している。

テキスト

秋学期も韓国語Ⅱを受講したい学生は下記のテキストを参考にすること。半期だけの受講を望む学生には、ページ数と授業回数を考慮したところ、テキストの全てを活用することができないため、プリント教材を配布する。

*参考書—金順玉・阪堂千津子・崔栄美著『最新チャレンジ韓国語』白水社（CD付）（2,484円）